

島根県で分離された *Salmonella* の血清型と年度別推移 (2010年度)

川瀬 遵・寺本彩香・高橋起男・熱田純子・黒崎守人

1. はじめに

近年、*Salmonella*感染症の発生は厚生労働省による感染症発生動向調査や食中毒の全国統計によると全国的に減少しており、島根県においても減少傾向にある。

しかし、食生活の変化や海外からの人の往来、さらに輸入食品の増加、外来生物のペット化などの影響を受けて、依然として監視すべき感染症と位置づけられる。当所では1976年以来 *Salmonella* 感染症の実態を継続調査しており、2010年度患者および健康保菌者から分離された *Salmonella* 菌株について、分離時期、血清型の種類、薬剤感受性などを検討したので報告する。

2. 材料と方法

県内の病院等で患者および健康保菌者から分離され当所に送付された26株、食中毒等で患者から分離された15株について血清型別及び薬剤感受性ディスク11種類を用いた薬剤感受性試験を実施した。薬剤はアンピシリン (AM)、セフトキシム (CTX)、セフトジジム (CAZ)、カナマイシン (KM)、ゲンタマイシン (GM)、ストレプトマイシン (SM)、オキシテトラサイクリン (TE)、クロラムフェニコール (CP)、シプロフロキサシン (CIP)、ホスホマイシン (FOM)、スルファメトキサゾール・トリメトプリム合剤 (ST) を使用した。

3. 結果と考察

3.1 月別分離状況

細菌性食中毒は5月から9月の暑い時期に多発するが、今年度、島根県では *Salmonella* による集団食中毒が9月に1件、10月に1件発生した。

3.2 血清型別推移

2010年度に多く分離された血清型は、*Salmonella enterica* subsp *enterica* serovar 4:i:- (以下「S.spp(4:i:-)」とする) で14株 (34%)、*S. infantis* の6株 (15%) であり (表2)、他に、*S. Enteritidis* が3株 (7%)、*S. Schwarzengrund*、*S. Typhimurium*、*S. Potsdam* がそれぞれ2株 (5%) ずつなどで型別判定不能の菌株が3株分離された。

3.3 薬剤感受性

分離された41株について、薬剤感受性試験を実施したところ、薬剤耐性なしが17株 (41%)、1剤耐性が16株 (39%)、2剤耐性が5株 (12%)、3剤耐性が1株 (2%)、4剤耐性が2株 (5%) であった。

S. Typhimurium DT104およびDT204の出現等、多剤耐性が問題となっている *S. Typhimurium* は確認されなかったが、薬剤耐性菌の浸潤に留意するとともに、全国的に流行する血清型には経年的な推移が見られることから、引き続き監視の必要がある。

表1 島根県のヒトから分離された *Salmonella* の血清型の月別推移 (2010年4月～2011年3月)

O抗原群	血清型	患者												健康保菌者	合計		
		2010年										2011年					
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
O4	<i>S. Paratyphi</i> B						1										1
	<i>S. Schwarzengrund</i>									1						1	2
	<i>S. Typhimurium</i>						1				1						2
	<i>S. spp</i> (4:i:-)						11		3								14
O7	<i>S. Thompson</i>															3	3
	<i>S. Imuru</i>														1		1
	<i>S. Potsdam</i>									2							2
	<i>S. Infantis</i>									1					5		6
O8	<i>S. Narashino</i> / II														1		1
	<i>S. Pakistan</i> /Litchfield														1		1
	<i>S. Istanbul</i> /Hadar						1										1
O9	<i>S. spp</i>							1							2		3
	<i>S. Enteritidis</i>				1			1				1					3
O16	<i>S. Hvittingfoss</i> / II														1		1
	合計	0	0	0	1	1	15	7	1	1	0	0	0	15		41	

表2 島根県でヒトから分離された *Salmonella* の血清型の年別推移 (2001年度～2010年度)

O抗原群	血清型	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	合計
O2	S.Paratyphi A			1	1							2
O3	S.Weltevreden					1						1
O4	S.Paratyphi B	2	1	1		1			1	1	1	8
	S.Schleissheim		1									1
	S.Stanley		2	1		1	1					5
	S.Eppendorf						1					1
	S.Schwarzengrund		1		1					2	2	6
	S.Saintpaul	4	1	2			2	1	1	1		12
	S.Derby								1			1
	S.Agona	2	2	2			2					8
	S.Hato	1										1
	S.Typhimurium	8	5	4	1					8	2	28
	S.Lagos						1					1
	S.Fyris			1								1
	S.Kiambu/ II				1		1					2
	S.Haifa		1				1					2
	S.spp(04:i:-)									1	14	15
	S.spp.		2					1				3
O7	S.Ohio		1									1
	S.Livingstone				1							1
	S.Braenderup							1				1
	S.Montevideo	4			3	3	1	1		1		13
	S.Othmarschen	1	1									2
	S.Oranienburg		1		1							2
	S.Thompson	2	1	3	4	4	4		2	8	3	31
	S.Singapore	2										2
	S.Irumu										1	1
	S.Potsdam										2	2
	S.Makiso		1									1
	S.Virchow				3							3
	S.Infantis	5	5	6	4	5	7	1	5	5	6	49
	S.Bareilly	1		2		1	3					7
	S.Tennessee II					1						1
	S. II		1				1					2
	S.spp.		3	2	1					1		7
O8	S.Narashino								1		1	2
	S.Korbol/Nagoya/ II	3		1								4
	S.Yovokome/ Manhattan	5			1	1				2		9
	S.Bardo/Newport	1	1	3			7					12
	S.Kottbus			1	1							2
	S.Pakistan/Litchfield	1	1	2	3	3					1	11
	S.Corvallis						2					2
	S.Albany/Duesseldorf	1										1
	S.Istanbul/Hadar	1	5						1		1	8
	S.spp.		1						1		3	5
O9	S.Typhi	1			1			1				3
	S.Enteritidis	18	29	18	6	22	4	4	6	1	3	111
	S.Mendoza		1									1
	S.Panama/Houston								1			1
O3,10	S.Anatum		1									1
	S.Amsterdam			2								2
	S.Zanzibar				1							1
	S.London			2								2
	S.Orion									2		2
O11	S.Aberdeen			1								1
O13	S.spp.		2									2
O16	S.Hvittingfoss/ II				1						1	2
O35	S. III b (<i>diarizonae</i>)		1									1
	S.spp.		1									1
UT(<i>S.arizonae</i>)									3			3
U T				3					2	1		6
	合計	63	73	58	35	43	38	10	25	34	41	420